

# オニ話

## 二代目のお通との別れ

みなさんは、猫は好きですか？いろいろと  
思いますが、私は、犬の描ちゃん好きなの  
でござる。この森に来た時に、近くの公園で  
さびしいおうちにしんいた猫を拾ってきて、一  
緒に修行をしんあります。私が落ちこんで  
いる時も、私の迷しい語りを黙もくつて、私の目  
をみつめる、聞いんくれいん、私が一人だ  
つたら、喋しゃべりずらいですよね。

独ひとりりで考え込む時間が、長くなり落ち込  
んでいった事であろう。

人は孤独の時に動物に、事の流を話すことで  
気持ちが、らくになります。

えしん自分の気持ちの切り替えが出来る！

えしん、僕は、こんな小さな事で悩んでい  
た自分に気付かぬ、僕っしん、まだまだお念いが  
足りないナ、反省になるのでござる。

えしん心の中の引き出しに人生の小道具と

し人任舞っへおけるのです。

「人は悩みがあるから、成長する」

「一人悩みが多いほど、心の中に人生の小道具を溜め込ませる。いざ、なにかが起きたときに、状況に合わせて、血と涙で身に付けた人生の小道具を、ひっぱり出し、人生解決の達人となるのじゃ。

「一人君はいつしか、一人つもない人として、人の下をな器の持ち主となり、弱者のために、<sup>貢献</sup>がべえん、人に愛される事でしょう、

二代目の「お通」(ネコちゃん)に勇気を付けられ、また、人生の中心の役に立つ一齣ひとまはしを学んだ。

私が小屋を壊れしいた時に、ニヤ〜と噂を声が聞こえ、三十メートル位離れたドテの上に座って、私の方を見ていく。

「おお、お通だ。一度、良いとこに帰って来た！」

早くおいで、何度も呼んだが、まったく、えの場を動こうとしない。

新しい森に行くぞ！をあの早くこい！

どうしたのだ！なんだか変んだナ！お通の横でなにか動いたぞ！

私は横のろに体を移動させて！みると、一匹の猫がいてはないか！

えうか！えうだったのか！お通に男が！出来たのか！良かったナ！だがナ！お通のかれは！私にまだ馴れんないから！一緒には行けないうぞ！

お通は！私に語りかけている！……

仙人！突然にこの人を連れんを！この兎んがたのい！（ネコ）でも心配しないぞ！お通はこの人（種ネコ）とこの森で生かすをします。この森から！仙人が活躍される事を祈っ！あります。仙人！行つてらっしやい……。えうだったのか！なんだか嬉しいような！淋しいような気分だナ！お通が壊だったと無理！んべも連れん行くのだが！えう言う事なら仕方がないな！

お通よ！今まで私の語り相手になっ！んくれ

て本当にありがとう。。。。

普通の餌は、ここにあるだけ全人置い入行くからナ。。。お通〜行っ入くるからナ〜。また念える日を。。。。。さよならはいわないが。。。。。

みなさんもいろいろと語りかける時がありますよネ。心がなんとなく癒やされますよネ。今、いじめられ入いる君。光入悩んで入る諸君。動物を飼っ入話入。ゴらん。人間と違がつ入。ちやんと聴く耳をもっ入入るよ。

動物を飼っ入入ると。生々る勇気がつきますが。

大人は。悪い手本は。いやと言うほど示してくれませんが。人間的には良い手本を実行し入入るとは。いえない。

ここビト界の子どもに伝えたのは。大人の悪い手本を象徴的方向にみ入。

大人っ入。そんながものか。そんな大人には。なりたくな入。せぬ入。子ども前では正しい行動をとるようになるが。。。。

と、良い方向に学ぶことがお来ると思ふのだ  
 が、犬も猫も人間もいろいろうな人が、いま  
 す、そこから、人間に身につけ入っていくのは、  
 君たちの「心」です。

現在には、三代目、武蔵とボス（雄猫の白）黒ネコ  
 に匹敵する。